

## 松本旗争奪少年野球大会 大会要綱

2023年4月

### 1. 試合

- ① 大会の試合イニング数は、6回戦とする。
- ② 試合時間は1時間30分とし、試合開始後1時間30分が経過した時は、新しいイニングに入らない。
- ③ 6回を終えても勝敗がつかない場合、もしくは、1時間30分を経過した回の表裏を終了しても勝敗がつかない場合は、タイブレークを行う。タイブレークは、無死一・二塁、継続打順で行う。タイブレークを2回行っても勝敗がつかない場合は、抽選で勝敗を決する。(ただし、大会初日は、タイブレークを行わず、抽選にて勝敗を決する。)
- ④ コールドゲームは、3回10点差、4回以降7点差がついた場合とする。  
日没・悪天候等の場合、4回の表裏が終了するか、試合開始後60分を経過していれば、試合成立の原則とするが、サスペンデット・点差・大会日程等を考慮し特例をもうける場合がある。
- ⑤ 全日本軟式野球学童部の規則を適用する。

### 2. 試合前

- ① チームの集合は、特に定めない限り、第一試合の場合は試合開始予定時刻の30分前、それ以外は試合開始予定時刻の60分前とする。
- ② 大会会場でのバッティング練習については、軟式ボールの使用は禁止、ヘルメットを着用の上、低反発球（カラーボール等）を使ったトス・ティーバッティングを指導者の責任のもとに行う事は認める。  
また、素振りについては必ず指導者が立ち会い周囲の安全を確保した上で行うこととする。
- ③ シートノックについて
  - ・捕手は、プレー中だけでなくシートノックの際も、プロテクター・レガース・ヘルメット・マスク・ファウルカップを着用の上行う事。攻守交代時臨時捕手もマスク着用のこと。攻守交替時臨時捕手として監督（背番号30）・コーチ（背番号28・29）を認める。
  - ・控え選手がノッカーの近くでボールを処理するときは、ヘルメットを着用する事。
  - ・ノッカーが捕手あるいは控え選手からボールを受け取る時は、必ず選手と正対する事。
  - ・補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。なお、コーチ一人のブルペン捕手を認める。（試合開始前までの間を許可する）
  - ・試合進行を優先するため、シートノックを省略する場合があります。（大会初日

はシートノックを省略する)

### 3. 打者

- ① 打者のリストバンドの使用は認めない。バッティング・グローブの使用は認める。

### 4. 投手

- ① 投手の投球練習は、原則、初回：7球、二回以降：3球とする。
- ② 監督がタイムを取り、投手に指示を与える場合は、試合進行を早めるため、マウンドで行う事。

### 5. 審判

#### ① 審判の割り当て

- ・当該グラウンドが、2試合の会場では、第一試合を第二試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当する事。
- ・当該グラウンドが、4試合の会場では、第一試合を第二試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当し、第三試合を第四試合のチーム審判で担当し、第四試合を第三試合のチーム審判で担当する事。
- ・当該グラウンドが、3試合の会場では、第一試合を第三試合のチーム審判で担当し、第二試合を第一試合のチーム審判で担当し、第三試合を第二試合のチーム審判で担当する事。
- ・とくに大会本部から指示があった場合は、その指示に従う事。

#### ② 審判員注意事項

- ・チーム審判員は控え審判員を含めて審判用制服を着用すること。

### 6. その他

- ① 選手以外でベンチに入れるのは監督(30)、コーチ(29・28)：2名、代表、スコアラーとする。代表の代行は認めない。監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し(シューズの色は異なっても構わない)、代表とスコアラーは、選手と同じ帽子を着用する事。監督が代行者の場合は、試合前に審判に届け出る事。
- ② 登録できる選手は9名～**25**名までとし、4年生～6年生で編成する。選手の背番号は0番～27番とする。但し、チーム責任で怪我をさせないように配慮していただいた上で、特別に以下の点を認める。  
参加できる6～4年生が12名未満の場合は、6～4年生の人数と合わせて12名になるまで3年生を追加登録することを認める。(当然、6～4年生だけで9人以上いる前提。つまり、6～4年生だけで9人未満の場合は大会にエントリーできない。)
- ③ 代表者会議に提出した登録メンバーは大会終了まで変更できない(但し、大会委員長の許可を受けた場合はこの限りではない)。
- ④ 本大会で使用するボールは内外ゴム製J号とする。～ボールは大会主催者が用意する
- ⑤ 選手・監督・コーチは、ストッキングがきちんと見えるようにユニフォームを着用

する事。なお、**ベンチに入るメンバーのサングラス着用を認める（帽子にサングラスをかけることも認める）**。

- ⑥ 投手の牽制悪送球によりボールデッドになった際は、投手板を外していたか否かに関わらず「テーク・ワン・ベース」とする。
- ⑦ デッドラインを越える前に捕球して、デッドラインを越えてしまった場合、倒れるか倒れないかに関わらず、デッドラインを越えた時点でボールデッドとなり、走者はワンベース進塁とする。
- ⑧ タイムの回数制限は、下記の通りとする。  
守備側タイム＝監督タイム：3回、選手タイム：3回  
攻撃側タイム＝3回  
なお、タイブレーク（特別延長戦）に入った場合は、守備／攻撃ともに、2イニングに1回追加する。  
<注意>野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば双方（監督タイム・選手タイム）ともに1回と数える。逆の場合も同様とする。  
投手交代の場合は、アドバイスを与えなければ、タイム回数には含まない。守備側のタイム中でも監督がベンチから出て、打者や走者に指示した場合は、攻撃側タイム1回として数える。
- ⑨ 申告故意四球を採用する。守備側チーム監督がタイムを要求し、審判員に故意四球の意思を伝えること。
- ⑩ 二段モーションは可とするが、一連の動作途中で停止が認められた場合は不正投球とする。
- ⑪ 試合会場での素振りフィールド内のみ可能とする。
- ⑫ 投手の投球制限は1日6イニングまでとする。但し、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大8イニングまで投げる事が出来る。タイブレークとなった場合に投げる事のできる投手は、タイブレーク方式の直前を投げ切った投手か、新たな投手（その日1球も投げていない選手）に限り、1日2イニングまで投げる事が出来る。投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回（アウト一つ）未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。また、1日2試合を限度とする。
- ⑬ 試合前の練習においては、ユニフォームを着た人のみがグラウンドに出る事を許可されるのが通常の大会のルールになっている。本大会では、あらかじめ監督よりユニフォームを着ていないコーチがグラウンドに出て練習の補助をする旨、本部に申し入れがあった時のみ、ユニフォームを着ていないコーチがグラウンドに出る事を認める。監督より事前に本部への申し入れがない場合は、ユニフォームを着ていないコーチがグラウンドに出た場合、本部、または、審判員より注意をする。
- ⑭ 実施要項に違反、又はスポーツマンシップに反する行動や言動が認められた場合は、

そのチームまたは代表者、監督、コーチ等にペナルティを科す。ペナルティはすべて、大会実行委員会で決定する。試合中、審判及び大会本部が必要とした場合はその時に第一次処理され、後刻第二次として大会実行委員が検討し、付け加える。

- ⑮ グラウンドルールは、大会会場は小学校校庭が多いので、各会場のローカルルールを適用する。試合前に十分確認のこと。